

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」申込書

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2020」において、下記のとおり自らの調査研究を発表したいため、募集要項に基づき応募します。

研究テーマ	地域コミュニティ活性化のための一提案～武蔵野市のコミセンを例に～
-------	----------------------------------

◆応募者（応募代表者）

(フリガナ) サカモト アズサ	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)
氏名 坂本 梓	国際基督教大学 教養学部 公共政策ゼミ

◆共同提案者

氏名(フリガナ)	大学名、学部名、ゼミ名(あれば)

◆研究の動機、テーマに関する考え、研究計画・手法などを、600字以内で記載

- ・武蔵野市が開催していた「公共施設あり方ワークショップ」への参加がきっかけで、市内のコミュニティセンターの運営に関する問題の片鱗を知った。自分自身も長年「オーケストラ」という組織に属する中で、組織を運営するにあたってぶつかる問題については関心があった。地域コミュニティと自身のかかわりについては、自分の住むマンションの自治会の主催するイベントを通しての記憶が印象に残っているが、武蔵野市には、「コミュニティ協議会」という町内会の代わりを果たすような組織があることを知った。
- ・都市型社会への移行に伴い、近年、地域での付き合いが軽薄化しているようにも感じられるが、防災意識の高まりや、高齢者の孤独死の問題の浮上から、改めて地域コミュニティの重要性が増して認識し直されていると思う。
- ・地域コミュニティにおける課題を、政策制度の観点からどのように乗り越え、解決できるのかを探っていくにあたり、筆者の存在する武蔵野市を例にしたい。武蔵野市のコミュニティ協議会の運営や、市内に存在するコミュニティ、それぞれが直面している課題などを、地域の方々の声もヒアリングする中で浮き彫りにする。また、武蔵野市の長期計画の中で、コミュニティ問題がどのように扱われてきたのかという変遷や、他地域のコミュニティ形態との違いも比較し研究できたらと思う。こうした調査ののち、可能と思われる政策や制度を提言する。